

【高等学校の部】 最優秀賞 (大分県教育の日推進会議会長賞)

## 私の支え

学校法人扇城学園東九州龍谷高等学校 2年  
新改 栞南



「真奈ちゃん。真奈ちゃん。」と私は泣きながら呼んでいました。それは、私が小学5年生の3月21日の出来事でした。母から真奈ちゃんの死を聞かされました。真奈ちゃんとは小学1年生の時に出会いました。真奈ちゃんは4つ年上で5年生でした。小学校に入学して友達もいないときに廊下で優しく声をかけてくれたのが真奈ちゃんでした。昼休みに一緒にバレーボールをしました。私にバレーボールの楽しさを教えてくれたのは間違いなく真奈ちゃんです。真奈ちゃんに誘われてバレー部に入りました。サーブの打ち方、レシーブの手の組み方、バレーの基本練習も教えてくれました。部活が休みの日は、コンビニでアイスやお菓子を買って、よく真奈ちゃんの家で女子会をしたり、外で遊んだりしました。手をつないで学校に行きました。夏祭りの花火も一緒に見ました。「かな、おいで。」と言って、毎日抱っこしてくれました。真奈ちゃんとの思い出は、ついこの間の事のように覚えています。本当のお姉ちゃんみたいで、いつも隣にいるのが当たり前でした。真奈ちゃんとの楽しい思い出は数えきれないくらいありますが、私が一番好きな時間は部活でした。真奈ちゃんはチームのエースで、すごかったよくて私の憧れでした。真奈ちゃんみたいに、真奈ちゃんみたいにと、練習を頑張っていました。真奈ちゃんと同じ目標に向かって汗をかいて頑張る時間が、私は大好きでした。真奈ちゃんは小学校を卒業して一緒にいる時間が少なくなりましたが、毎朝学校へ行く途中、すれ違うので沢山お話をしました。それが私にとって毎朝の楽しみでした。しかし、毎朝すれ違っていた真奈ちゃんが来なくなりました。がんになり、亡くなったのです。私は、その話を部活終わりの車の中でお母さんから聞かされました。私はずっと泣いていました。とても悲しくて辛くて、気力をなくしました。でも、一番辛いのは私ではなく真奈ちゃんです。私は、病気と闘っている真奈ちゃんのことを思い浮かべ、毎日頑張ることができました。私は、中学1年生の時にバレーを辞めたいと思う時期がありました。バレーは大好きだったけど、人間関係のことで苦しかったからです。でも、私は絶対に辞めたいなんて言わないと決めました。それは、真奈ちゃんがいたから。真奈ちゃんはバレーがやりたくてもできない、大好きなのにできないのです。私を真奈ちゃんはずっと支えてくれました。今も支えてくれています。投げ出したい、逃げようかなと思った時は真奈ちゃんの立場で考え、自分の心の中に「まだできる」と言い聞かせました。そして、私はまた部活と真面目に向き合うことができました。真奈ちゃんのおかげで私が生きてやろうと強い気持ちに変わっていき、力が湧きました。私は、真奈ちゃんの「死」を身近に感じ受けとめたことにより、私自身もとても多くの人に支えられて生きていることをあらためて学びました。そして今、高校2年生の私は名門、東龍で思い切りバレーボールをして日本を目指しています。私はバレーボールを通して人間形成をして日々成長していきたいです。真奈ちゃんが私にくれた優しさを笑顔で、今度は私がたくさんの人に伝えられたらと思います。